

Urban Design Lab. Magazine

東京大学都市デザイン (西村・北沢) 研究室
工学部都市工学科/工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

編集長 : 坂内良明
編集委員 : 石井宏典 塩澤諒子 蛭灰谷愛 平岡惟 増田圭輔 矢原有理

新緑の季、まちづくりの芽吹いて 全国各地で今年もプロジェクト始動

風が暖かみを増す5月、本研究室有志が各地で取り組むまちづくりプロジェクトの芽が今年もまた成長しつつある。八尾、喜多方、鞆、新宿…。新たなメンバーも加わり、2007年度の活動はどのような展開を見せるのか。昨年度からの主要プロジェクト古参メンバーに、今年の活動予定と意気込みをうかがった。



※Scheduleの★は現地訪問予定

八尾 ATSUO

-富山県富山市-

Introduction

おわら風の盆、曳山祭で有名な富山市八尾のまちづくりを支援する活動を行っています。本年度はM1が5人加わり総勢14名になりました。本年度はプロジェクトが4年目を迎え、活動の最終年に位置づけられています。今年は八尾旧町全体が活性化するための提案、活動と4年間の活動のまとめを行う予定です。

昨年度までは八尾の各町(福島町、西町、上新町)を対象にしていましたが、今年は前年までの活動を支援を継続しながら、八尾全体のまちづくりに関わる活動をしていきます。

まちづくりセミナーや町づくり組織への支援、まちづくり通信の発行、まちづくりフォーラムの開催が主な活動になります。さすが東大都市デザイン研究室と言われるような、密度の濃い活動を全員で一丸となって目指します。



Introduction

蔵の町、会津地方の喜多方市がプロジェクトの拠点です。

活動枠を限定せず、調査・プランの提案・イベントの開催など、多様な活動を、住民の方々の協力の下に実施しているのが特徴です。昨年度は「景観協定締結の補助活動」と「蔵の利活用プロジェクト」を行ってきました。

現在、喜多方では市内の様々な活動を統合し、まちづくりを一つのビジョンの下に行おうという流れが出来つつあります。また、我々研究室の活動も7年目を迎え、今までの活動内容をまとめる必要性があります。

そこで今年度は、研究室を含めた諸団体が、活動内容の共有や意識を統一することを目標に、「のれんプロジェクト」や「まちづくり博覧会」などイベント開催をはじめとした様々な活動を行います。



鞆 TOMO

-広島県福山市-

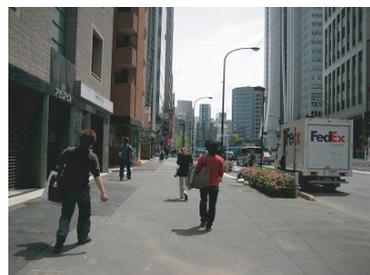
Introduction

瀬戸内の情緒ある古港、鞆の浦が舞台のプロジェクトです。

今、鞆の浦は、歴史的港湾への埋立・架橋を巡る裁判を6月にひかえ、大きな転換期を迎えています。このような状況を受けて、鞆プロジェクトは、研究室のプロジェクトとしての意義も模索しながら、昨年度から鞆の浦だけでなく他の港町にも目を向けた活動をしてきました。

今年度は「港町ネットワーク・瀬戸内」と連携した活動を計画しています。具体的には、「北前船」という観点から瀬戸内の港町の歴史や現在のまちづくりを調査研究して、町の将来像を描き、今後のまちづくりのあり方を提案しようと考えています。

Schedule



Introduction

新宿区の全街路踏査によって、新宿区の各地区の景観特性を調査するプロジェクトです。新宿と一口に言っても、その範囲は広く、新宿副都心に代表されるまさに都心業務地区といったエリアだけではなく、東は神楽坂から西は落合という住宅地まであります。

都会的な空間から郊外既成市街地まで、様々な景観を細やかに読み解いていきます。

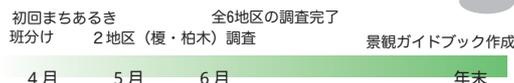
新宿 SHINJYUKU

-東京都新宿区-

今期は昨年からの調査を新体制で引き続き行い、完了させます。ここでの景観調査の実績が新宿区の今後の景観計画の基礎に生かされる重要な調査。

責任感を持ってしっかりとやっていきたいです。

Schedule



'Thinking Spaces for Making Places' Planning Research Conference 2007

馬場 & ファズリ 学会発表 in U.K.

M2 Fadzli Zubi

10-12 April 2007, Heriot-Watt University, Edinburgh, Scotland
http://www.sbe.hw.ac.uk/prc2007/

Baba Yoshihiko and I attended the Planning Research Conference (PRC) 2007 held at the Heriot-Watt University, Edinburgh, Scotland from 10-12 April 2007. The theme of the Conference was 'Thinking Spaces for Making Places'. The annual Conference was well attended by about 100 participants including 4 plenary speakers. The participants came from various backgrounds many of whom were University professors, lecturers, researchers and post-graduate students from Europe and also Asia. There were 4 themed paper tracks including:

1. Culture, Identity and Quality of Life;
2. Sustainable Urban Form and Growth Management;
3. Regenerating Economy, Society and Space; and
4. Regional Development and Resource Management.



I presented a paper related to my Master's research entitled 'Designing for a New Urban Image: Odaiba Waterfront City, Tokyo' whilst Baba Yoshihiko presented a paper related to his previous research entitled 'Think Space to Manage Place with Local Community - A Case Study of Shutoku District, Kyoto'. Just like other presenters, we also received some comments and questions based on our presentations and we were more than obliged to respond to them.

The three-day Conference seemed so short with many interesting papers to listen to. It was as a matter of choosing which sessions suited our interests most. Having studied town planning in the UK before, both of us were delighted to get in touch again with some of the planning issues and challenges in the UK and also Europe. Nevertheless, the Conference was not only about serious matters but also social affairs. The Secretariat organized a reception at the Edinburgh City Council City Chambers on the first evening which Baba Yoshihiko was more than happy to attend. Too bad I could not attend simply because I needed some rest after a long flight and beside I don't drink! There was also another reception on the second evening as well as a Conference Dinner for those who paid for it. Baba Yoshihiko obviously enjoyed all the nightlife and binge drinking but somehow managed to keep himself sober in the morning!

The Conference ended with a bus tour around Edinburgh city on the third day. Eventhough it was just a brief tour, at least we got to learn something about the planning and development of some parts of Edinburgh. Among the highlights included a visit to the new Scottish Parliament Building which design was controversial enough among the participants! Finally we parted with heavy hearts hoping to visit the historic Edinburgh again in the near future.

<抄訳>

私達(馬場・ファズリの両氏)は、4月10日-12日、U.K.のPlanning Research Conferenceにおいて学会発表を行いました。

今年度の論文の大筋のテーマとしては、「文化-生活の質とアイデンティティ」「持続可能な都市の形態と成長管理」「経済・社会・空間の再生」「地域の発展と資源のマネジメント」の4つ。欧州・アジアから集まった多様な研究者100人以上の前で、わたし(=ファズリ)は都市デザインの先進的事例としてお台場地区を、馬場氏はコミュニティ連携型の空間デザインの事例として京都・修徳地区を、それぞれ紹介しました。

3日間の学会はあっという間で、実際には関心の強い分野を中心に聴くのが精一杯でした。が、かつてイギリスで学んだ私達にとっては、欧州の都市計画の課題や取り組みを再び聞くことができたのはよかったです。(そうそう、馬場さんは連夜のレセプションでその酒豪ぶりを存分に見せ付けたようですよ!)

学会はエディンバラへの小旅行で幕を閉じました。短い旅でしたが、エディンバラという都市の発展に関してなにがしかの雰囲気はつかめた気がします。議会の建物に関しては参加者の間でも物議がありましたね。最後には、次は近いうちにぜひエディンバラの歴史地区を訪れたい、という想いを胸に共有しつつ、別れの途につくことになったのでした。

(文責:石井)

未知の街の路に立ちて 各プロジェクト、新メンバーの肉声

KITAKATA

研究生 ジャック・ファリス

緑の多い福島県にある喜多方市に入るとラーメンの看板が目立つ。どこを見ても派手な宣伝が客寄せしている。ラーメンを食べて帰る観光客が多いそうだ。しかし、ラーメン屋などの建物の裏を見ると、蔵が建っている。私はラーメンが好物ではないが蔵と歴史に興味を持っている。

観光用のパンフレットに書いてあるスローガン「蔵シック喜多方」はこの町に合っていると思う。蔵の数だけではなく、蔵の作り方や使い方も様々である。お店として使われている蔵も倉庫敷として使われている蔵もある。その上、市民は蔵や喜多方の歴史に興味がありそうで、町の保存を大切にしているようだ。

それに加えて喜多方の人々は驚くほどやさしいのでプロジェクトの苦勞は楽しくなる。それは田舎のやり方だべえ!

YATSUO

M1 鎌形敬人

M1新メンバーの4人を加えた一行は5/2に八尾入り。前日に金沢旅行のM1は夜行列車とマン喫泊の影響で既にごったたり、先が思いやられます。

越中八尾駅に着くと、窓口に置かれた西町マップにひと盛り上がり。去年の成果はしっかり形になっていました。その後、明日が祭りとは思えない静かな八尾の街を散策し、西町商工会との会議ののち、夜には西町公民館で行われた曳山説明会にお邪魔して、曳山の歴史や見るべきポイントを教えていただきました。

23:30開始、その後飲み会、という中島助教基準の過酷なミーティングを乗り越え、次の日はメインの曳山祭。曳山は町ごとの特徴や独自性があらわれた華麗なもので、豪快かつ繊細なターンのたびに歓声が上がりました。町ごとの団結力を感じるとともに、こちらも元気をもらうような活力あふれる祭りでした。

プ

プロジェクト活動のうち、最遠の鞘を除いた3つに関しては、既にGWの休暇等を利用して、早くも現地訪問を済ませ、まちあるきをおこなっている。

希望に燃える新メンバー達に、今年もプロジェクトの第一印象を聞いた。
(※各プロジェクトの詳細は表面参照)

SHINJUKU

M1 パンノイ・ナツポン

デザ研のマンモスプロジェクト「新宿」の最終章がついに始まりました。現在プロジェクトチームは柏木と榎地区の景観構造と景観資源をまとめ上げる段階に入っています。4月末から景観資源や景観構造を調査するために、暑い日も雨の中もチームのメンバーは「街歩き」をしました。今回の街歩きを通じて景観調査の難しさを体験した新人のM1は先輩の指導を受けながら作業を進めていますが、「景観構造とはなんぞや!」という課題に取り組み、日々奮闘している様子です。

ハードスケジュールの中で熱い議論を交わしながら作業に夢になっている新宿プロジェクトチームは、景観法を実施しようとしている新宿区のすばらしい試みに精一杯応えようとしているように感じます。この思いがいつか新宿の景観、そしてこの国の景観を美しいものにしていくのでしょうか。

編集後記

大学生活も早5年。ふと思えば、18の時から歩いた都市を順に手帳に書き出していったものの、たかが数ページすら埋めつくすことが出来ず愕然とする。雪と炎の国アイスランド。1週間の反ブルジョワ的シベリア鉄道。トルコのブルーモスク。天空の城マチュピチュ。チベット高原を鉄道で駆け、ギリシャの偉大な遺跡群。世界の最果てスバルバル。セントヘレナのヤコブのはしご。世界の険たる蜀の栈道。パラオの澄んだ海と月光。バルト三国の美しく枯れた首都。怪しげな沿ドニエスタル国。夜の冷えきったアラビア砂漠。深くて碧い紅海。魔の南極大陸。南太平洋絶海のブーベ島。ああ、ディスプレイの中でのみ知る世界の神秘に、僕はあといくつ触れることができるのだろう。

text_lshi